

# 令和6年度 学校評価アンケート結果

## 1 回答者

生徒358名 保護者259名 教職員28名  
(令和7年1月10日(金)～1月24日(金)に実施)

## 2 回答方法

各質問事項に対して、「そう思う」「ほぼそう思う」「あまり思わない」「思わない」「どちらともいえない」の5段階の回答を依頼し、「そう思う」「ほぼそう思う」を肯定的回答、「あまり思わない」「思わない」を否定的回答として調査結果を分析しました。

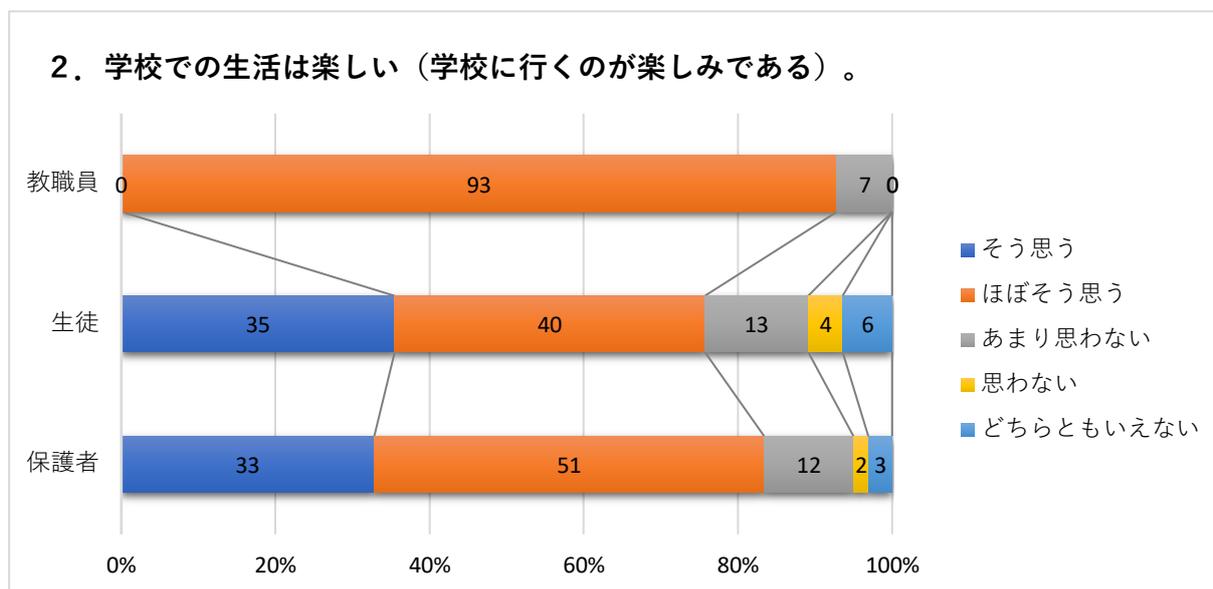
## 3 結果の活用

調査結果は2月にとりまとめ、すべての教職員に配付し課題と改善点を明らかにした上で、令和7年度の学校運営や教育方針、さらには重点目標に反映させていきます。また、保護者や運営協議会委員にも調査結果を提示してご助言をいただき、改善すべき点は積極的に改善するよう努めていきます。

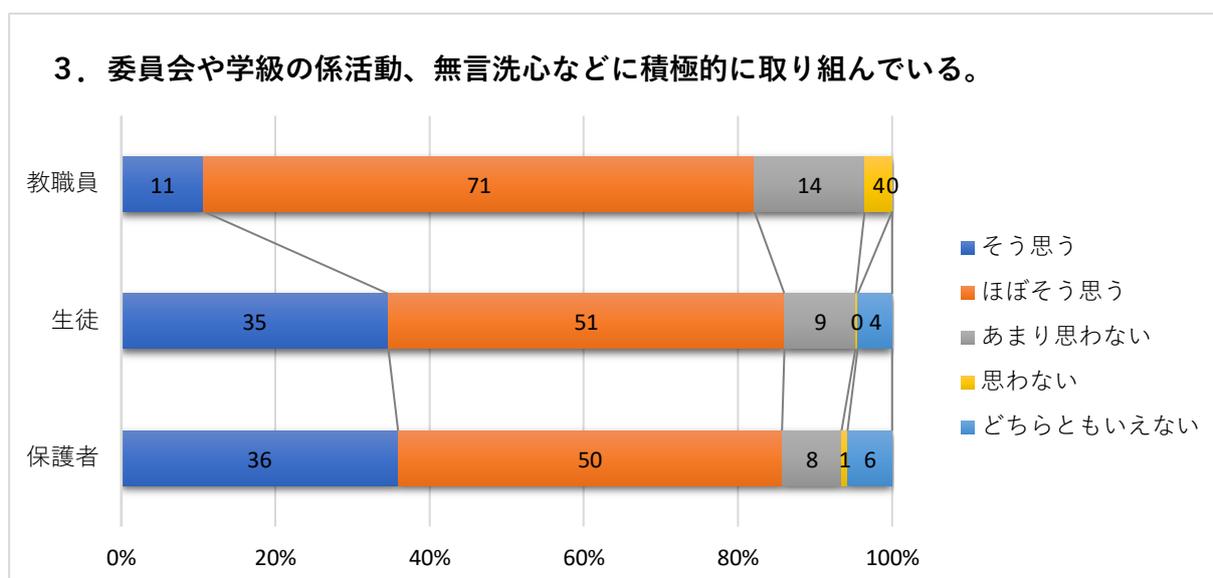
阿南市立羽ノ浦中学校

グラフ内の数字は全体に占める割合（％）を示しています。

### 1. 所属学年について（グラフは割愛）

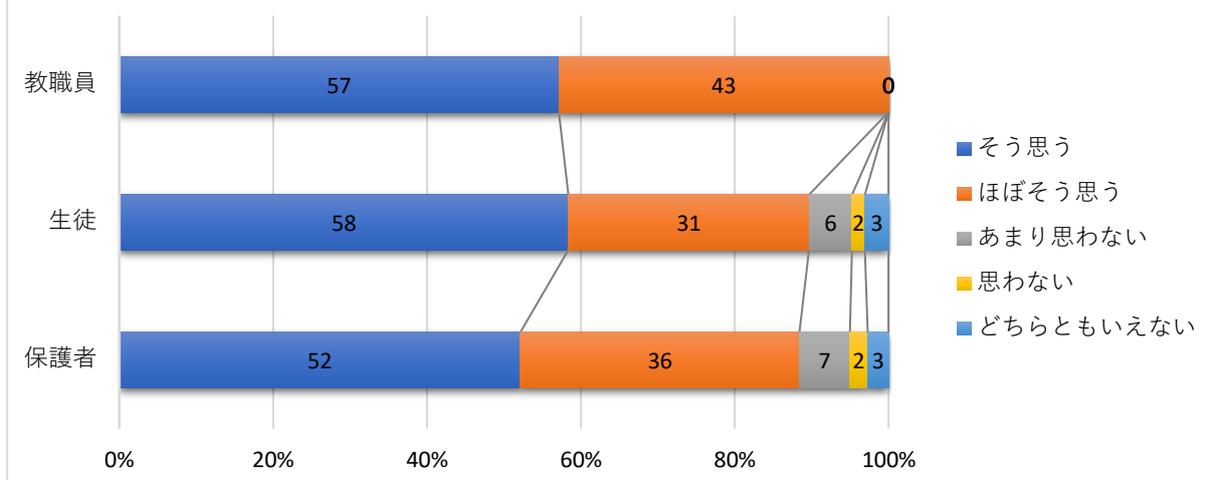


生徒は75％、保護者は84％、教職員は93％が肯定的回答をしており、それぞれ令和5年度とほぼ同じ結果になりました。今後は、すべての生徒が学校生活を楽しいと感じられるよう、生徒一人一人への丁寧な指導や支援の充実に努め、生徒の健やかな成長がはかれるよう学校づくりを進めてまいります。



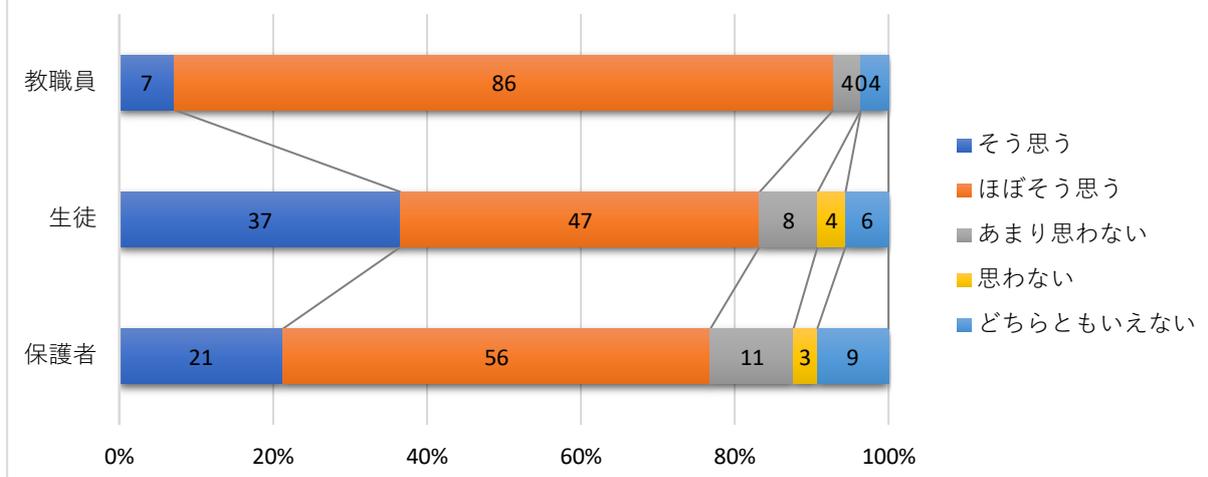
肯定的回答が生徒86％、教職員82％、保護者86％となっており、多くの生徒が自分の役割を自覚し責任をもって果たしているといえる結果になりました。今後は、ポジティブな行動支援の観点から、現在積極的に取り組めていない生徒にも頑張りを肯定的に認め褒めることで、自己有用感を高められるよう、指導を継続していきます。

#### 4. 運動会や文化祭などの学校行事や部活動に積極的に取り組んでいる。



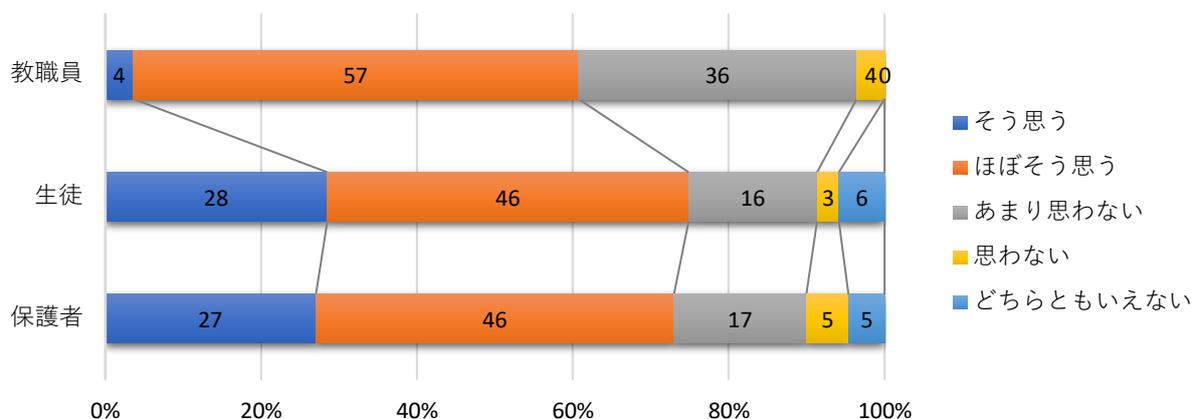
生徒と保護者の9割近く、教職員の全員が肯定的な回答となっています。多くの生徒が積極的に取り組んでいる一方、生徒と保護者の中には否定的な回答もあるため、積極的に取り組めない原因や困り感を把握し、学校行事や部活動の適正な運営に努めていきたいと考えております。

#### 5. 学級には、互いを認め合う雰囲気がある。



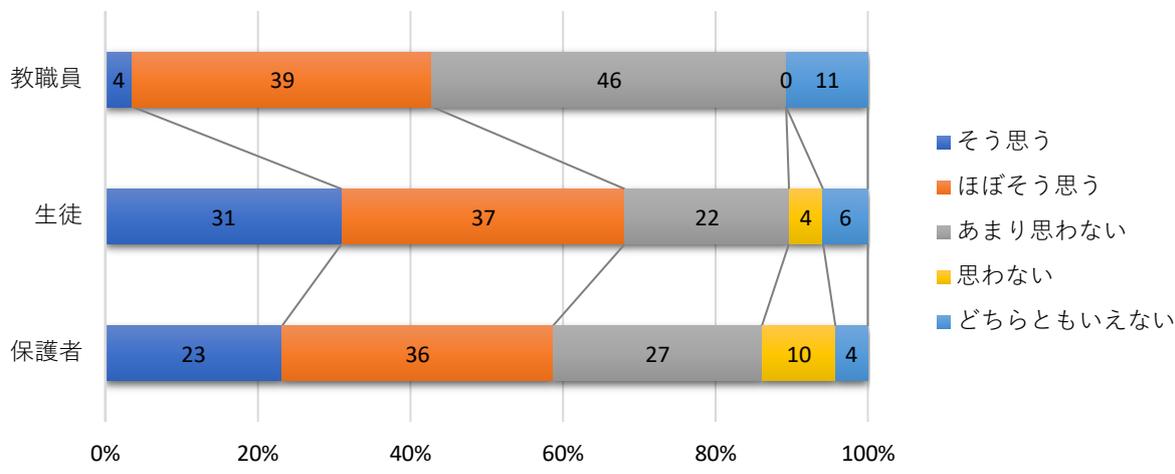
生徒84%、保護者77%がそれぞれ肯定的な回答となりましたが、教職員の肯定的な回答は93%と、結果に少し開きが見られます。学校・学級という集団の中で円滑に生活を送るために、互いのよさや違いを認め合い、人権を尊重することは極めて大切な事です。学校生活の様々な場面で人間関係づくりのスキルアップを目的とした活動を効果的に実施し、互いを認め合う雰囲気の醸成に努めてまいります。

**6. 時間にゆとりをもって登校したり、3分前着席をしたりするなど、時間を見て行動できている。**



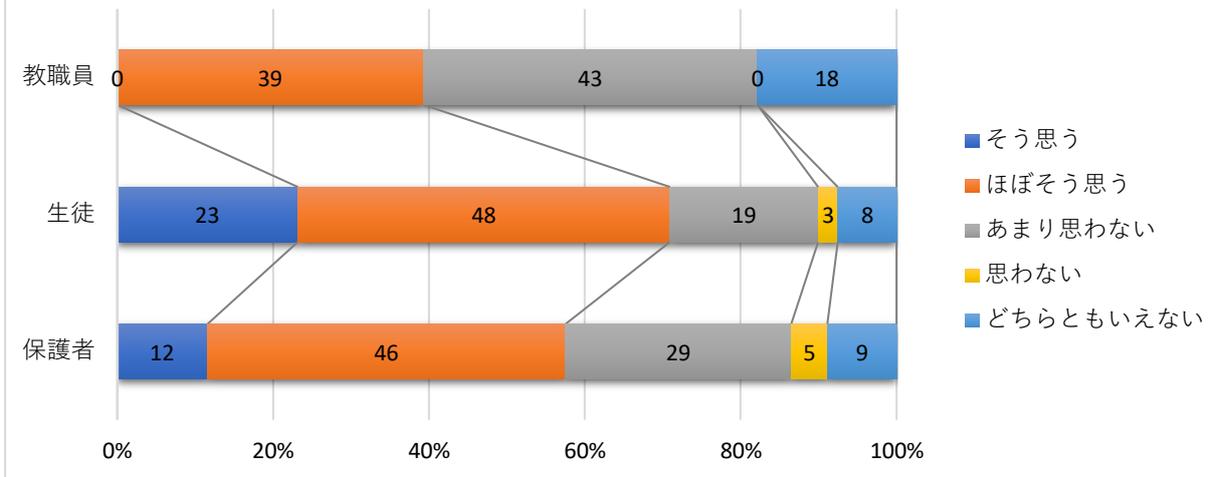
生徒74%、保護者73%がそれぞれ肯定的回答となりましたが、教職員の肯定的回答は61%と少し差が見られます。本校では「ノーチャイム」「3分前行動」に長年取り組んでおり、重点指導事項に位置付けています。今後は、なぜ時間を見て行動する必要があるのか、その理由を理解させた上でタイムマネジメント能力の育成に取り組んでいきます。

**7. 毎日家庭学習に取り組んでいる。**



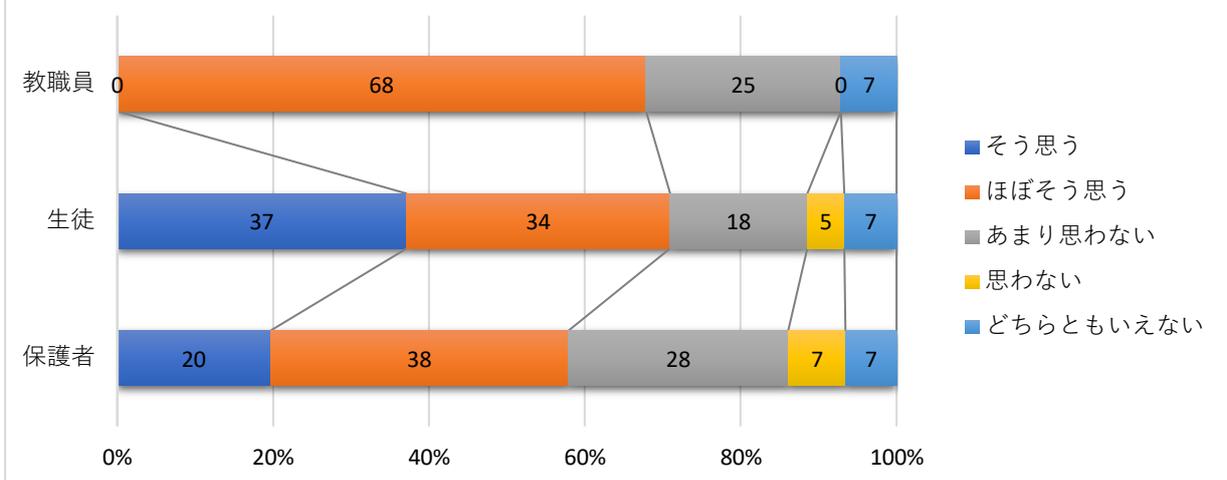
肯定的回答は生徒68%、保護者59%、教職員43%となり、大きな差があります。本校では自主学習ノートを毎日提出することを目標に、家庭学習の定着を進めています。今後も、自主学習ノートだけに限らず、自ら課題を見つけ、主体的に学ぶ姿勢の育成に向けて取り組んでまいります。

### 8. 学校や授業で学んだことを生活の中で活用しようとしている。



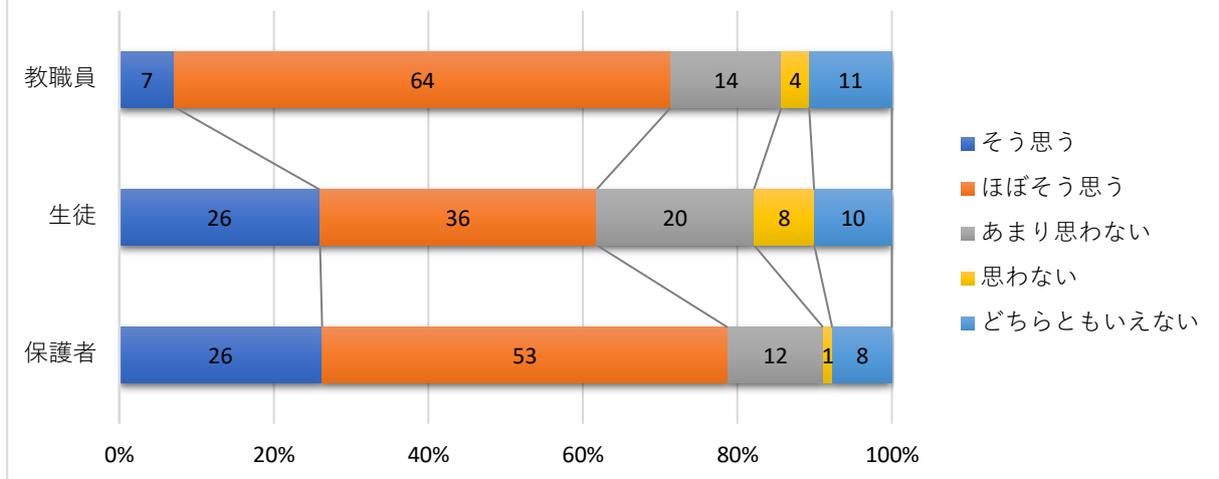
肯定的回答が生徒71%、保護者58%、教職員39%と結果に大きな差があります。各教科だけでなく、道徳科や人権学習で学んだことと自分自身の日常生活とを結び付け、自分事として考える習慣を身に付ける必要があります。そのために、教職員はこれまでの学びと関連付けながら指導するよう努めてまいります。また、自ら課題を見つけ、解決していこうとする態度やスキルを身に付けられるよう、学習内容を見直していきます。

### 9. 自分の進路について考え、夢や目標をもって生活している。



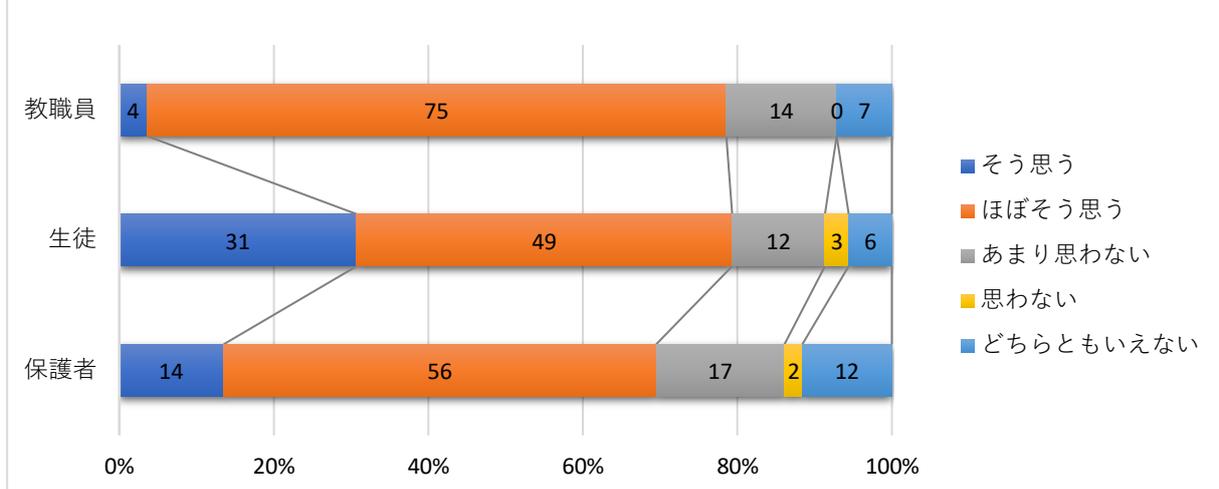
肯定的回答は、教職員68%、生徒71%、保護者58%と、少し差がある結果になりました。学校のあらゆる教育活動を通じて、自己実現に向けた目標を意識させることが大切です。今後、キャリア教育のさらなる充実を図るとともに、実践的・体験的な学習を通して、自分らしく生きるために「学び続けたい」「働き続けたい」と強く願い、それを実現する意欲をもった生徒の育成をめざします。

### 10. 自分は大切な存在であり、自分にはよいところがあると思っている。



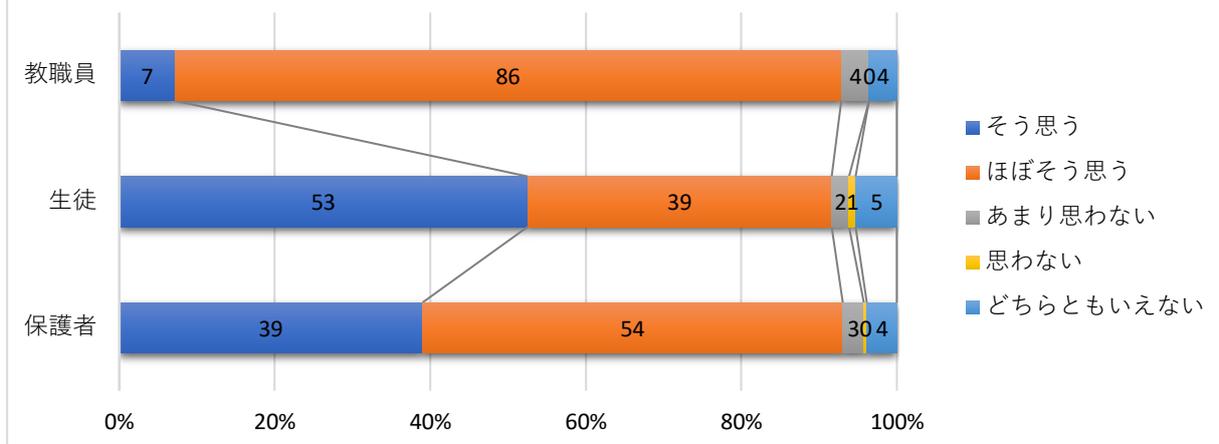
生徒の肯定的回答は62%であり、教職員や保護者が考えるよりも低い結果となりました。大人はこの結果を真摯に受け止め、生徒がありのままの自分を「大切な存在」と受け入れられるために、まずは大人が今まで以上に子どもたちに「あなたは大切な存在である」ことを惜しみなく伝えることが必要であると考えます。また、学校の全ての教育活動に人権教育の視点を位置づけ、互いのよさや違いを認め合える雰囲気の醸成に努めてまいります。

### 11. 道徳などの時間に、自分自身の生き方について考えることができている。



生徒・教職員ともに約80%が肯定的回答となっています。学校では、道徳科や人権学習など、あらゆる教育活動を通して自分自身の生き方や望ましい人間関係について考える機会があります。そこでの学びをその場だけのものとせず、実生活で行動してこそ意味があるものです。生徒の自己実現に向けて、協調性や責任感、自他を尊重する心、豊かな感性を育む教育活動を今後も実践していきます。また、道徳ノートや人権ファイルを持ち帰り、保護者の方にもご一読していただくことで、学校の学びを家庭でも共有できる取組を進めてまいります。

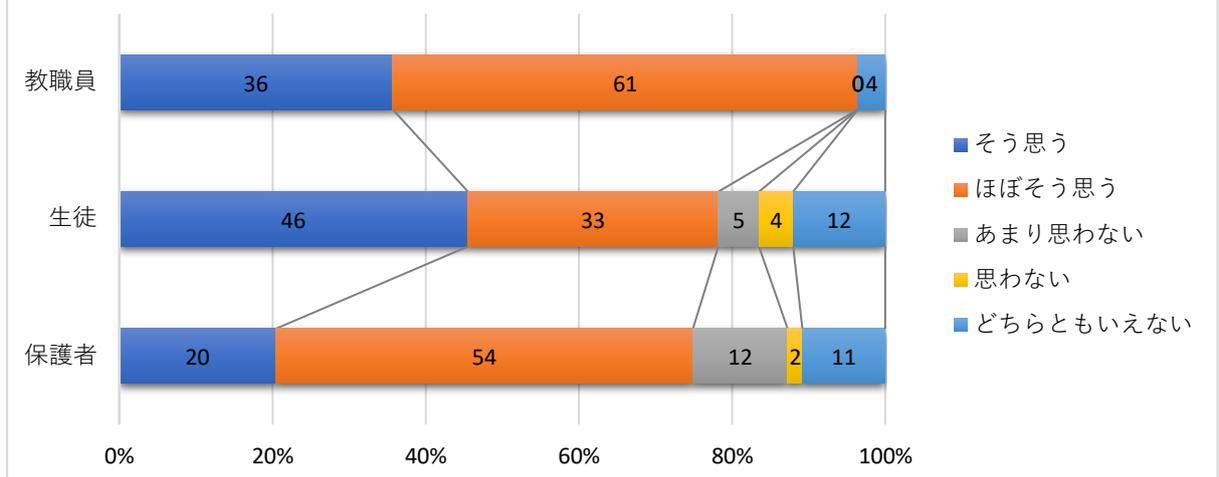
## 1 2. いじめや暴力を許さず、よりよい友人関係をつくっている。



肯定的回答が教職員、生徒、保護者ともに90%を超える結果となっています。しかしながら、否定的回答が若干あることから、「いじめや暴力が許容されている」事実が少なからず存在するものと考えられます。

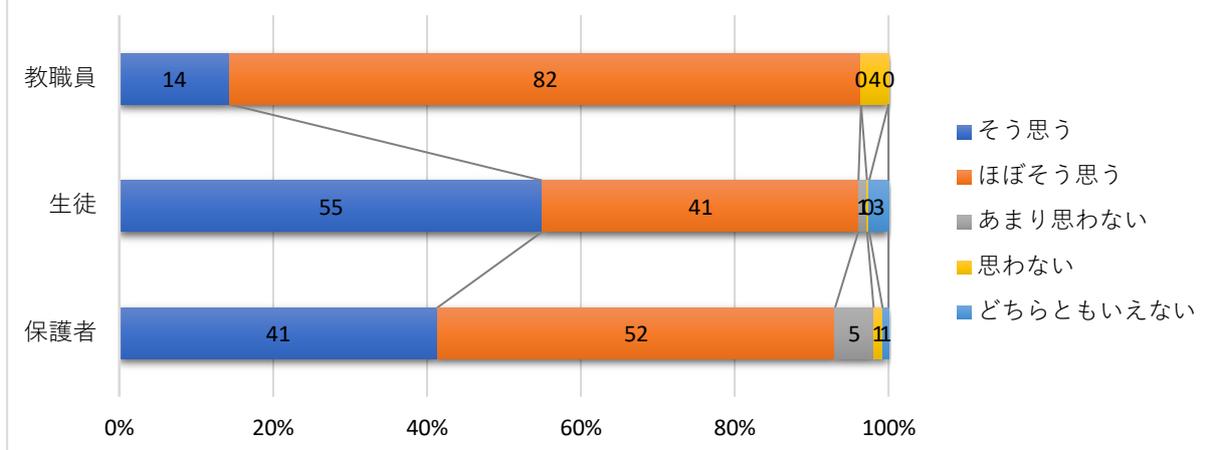
「いじめや暴力はいけない」と分かっても止められないのはなぜか、自分ならどんな行動ができるのかを自分事として考える学習をより一層推進していきます。また、いじめや暴力を許さない仲間づくりの機会を意図的に設定し、よりよい友人関係を構築できるよう推進していきます。

## 1 3. 先生は友達とのトラブルや悩みについて素早く対応してくれる。



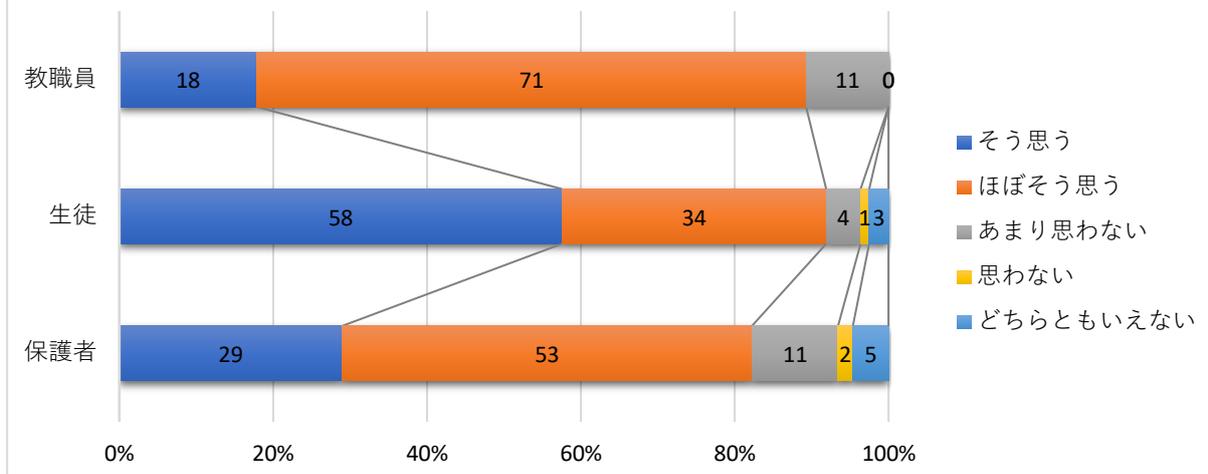
教職員は97%が肯定的回答なのに対し、生徒79%、保護者74%にとどまっており、大きな差が結果に表れています。学校は生徒や保護者から相談を受けた場合、学年や学校全体で素早く事実確認をし、問題解決に努めていますが、把握できていないものや解決に時間を要する場合があります。今後も生徒の心情に寄り添い、安全で安心できる学校をめざして、生徒支援や個別の対応、丁寧な説明に努めてまいります。

#### 14. 学校や社会のルールを守って生活している。



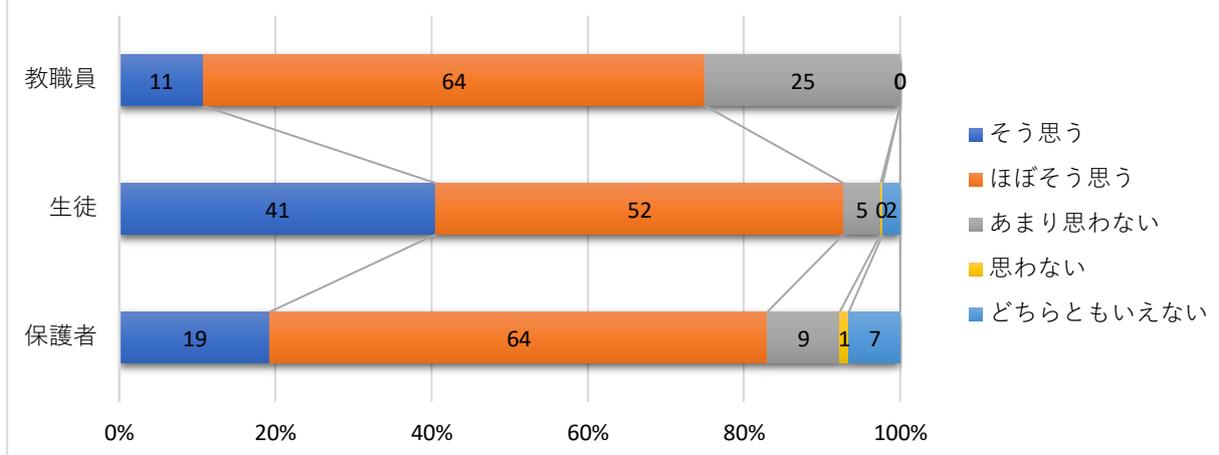
教職員、生徒、保護者ともに90%以上が肯定的回答でした。この結果から、多くの生徒が規範意識を高くもち、落ち着いた学校生活を送ることができています。今後は、放課後や休日の生活においても、羽中生としての自覚と誇りを持ち、保護者の方のご協力を頂きながら、ルールを守り、安心・安全な生活が送れるよう指導していきます。

#### 15. 友達や先生、地域の人にあいさつができています。



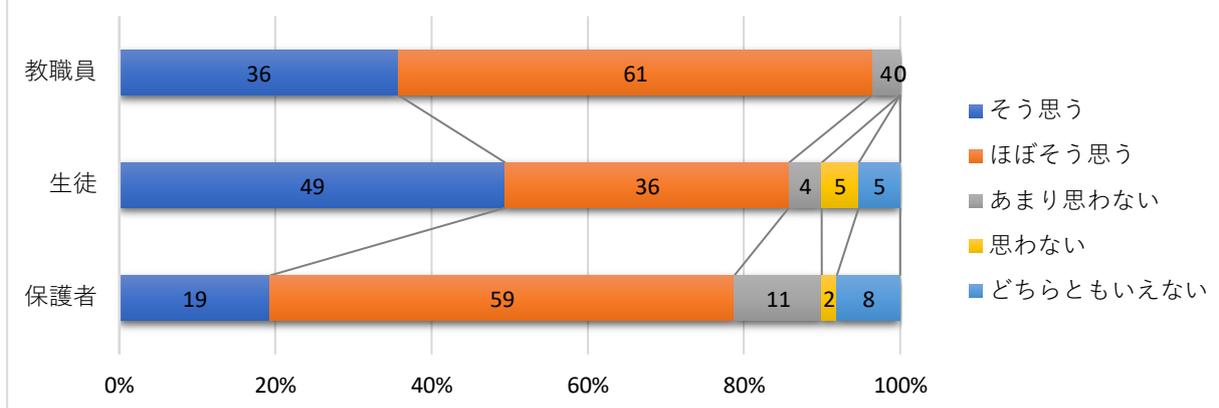
肯定的回答が教職員89%（昨年63%）、生徒92%（昨年87%）、保護者82%（昨年73%）となり、昨年度より大きくポイントが増加しました。本校では、生徒会が中心となり毎朝のあいさつ運動を各学級に呼び掛けており、生徒全員が交代であいさつ運動に参加しています。また、授業の号令や校内ですれ違った際、部活動でも気持ちのよいあいさつをすることを奨励しており、そうした習慣が定着しつつあるといえます。時間や場所に関係なく、進んであいさつができるよう、今後も指導していきます。

### 16. 自分の考えや意見を伝えるために、場に応じた言葉遣いができている。



肯定的回答は生徒93%に対し、教職員75%、保護者83%と少し差がある結果となりました。場に応じた言葉遣いは、相手への敬意や自分の考えを正確に伝えるためのコミュニケーションの基本となります。今後も学校生活の中で自分の考えや意見を適切に伝えられるコミュニケーション能力が身に付くように、ペア・グループワークの機会を増やすなど、言語活動の充実に努めてまいります。

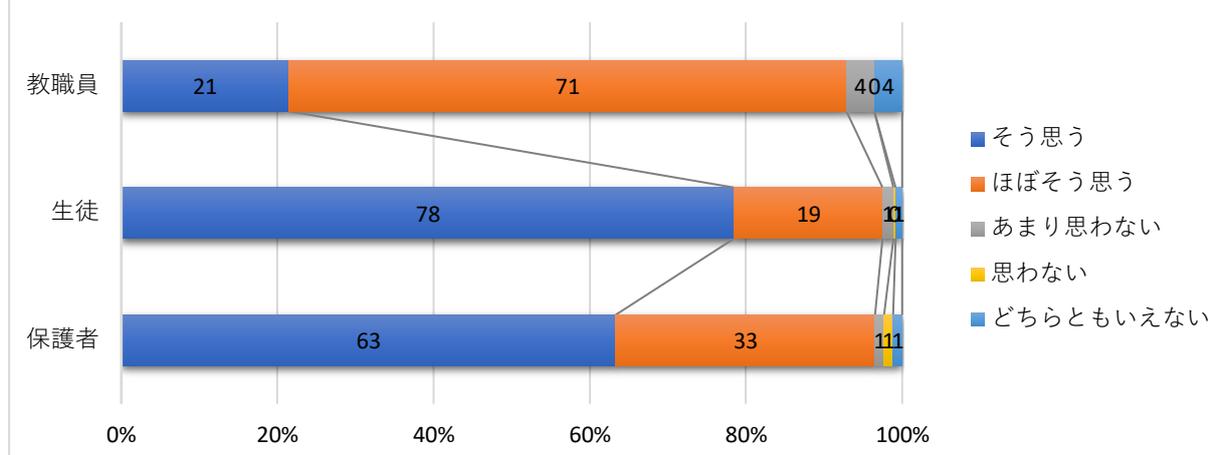
### 17. 先生は、一人一人の生徒を大切に、頑張りやよいところを認め、公正・公平に接している。



肯定的回答が教職員97%に対し、生徒85%、保護者78%となり、結果に差がありました。肯定的回答がある一方で、否定的回答も見られるため、教職員は一人一人の生徒を大切に、公平・公正に接することができるかどうか、日頃の言動や接し方について真摯に向き合い、改善していく必要があると考えます。

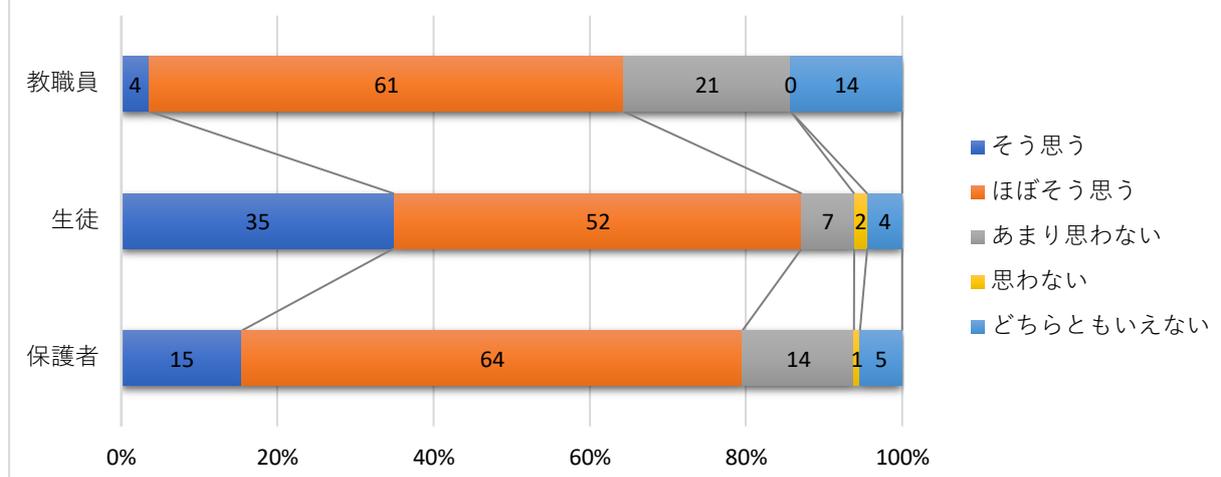
また、学習指導において、すべての生徒が「わかる」「できる」授業を実現するために、日々授業改善を行い、学習活動の充実に努めてまいります。

### 18. 交通ルールを守り、ヘルメットや反射たすきを着用している。



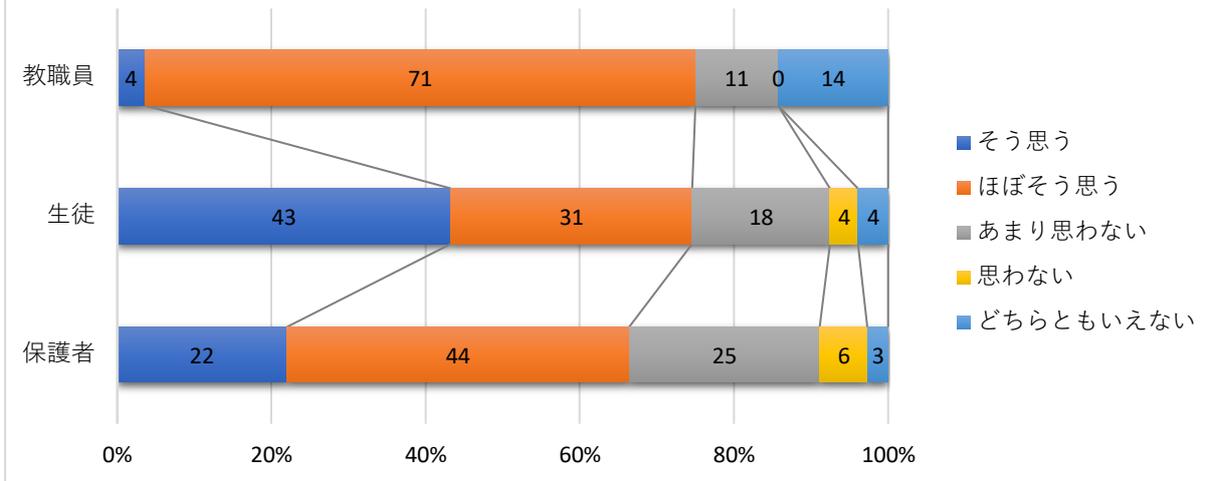
肯定的回答が、教職員、生徒、保護者ともに90%を超えており、交通ルールは概ね守ることができていると考えられます。しかしながら、今年度は本校生徒の自転車運転に関する交通事故が多発したため、緊急の交通安全週間を設定し、交通安全に関する学習を再度実施しました。今後も、危険運転の防止と合わせて、危険を予測する運転ができるよう、丁寧に指導を行っていきます。

### 19. 事故や災害等、危険の予測やその回避の方法を知っている。



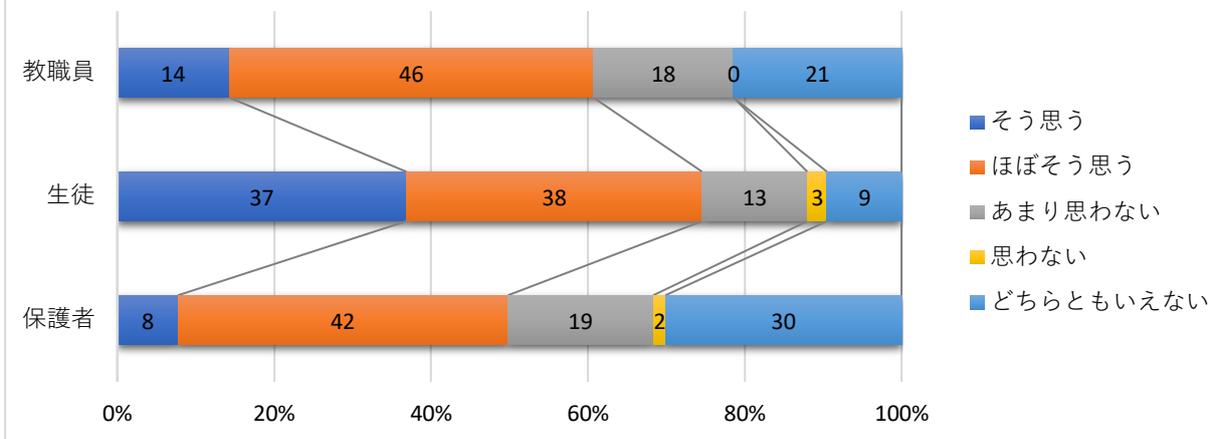
生徒の肯定的回答は87%と高くなっていますが、保護者79%、教職員は65%と少し低い結果となっています。防災に関する学習や避難訓練などを実施していますが、学習した内容が日常生活の中での危険予測に結び付いていない場面も見受けられます。今後もあらゆる機会を通じて防災・減災の意識を高め、行動に移せる生徒を育成していきます。

20. 「早寝・早起き・朝ご飯」等の基本的な生活習慣が身についている。



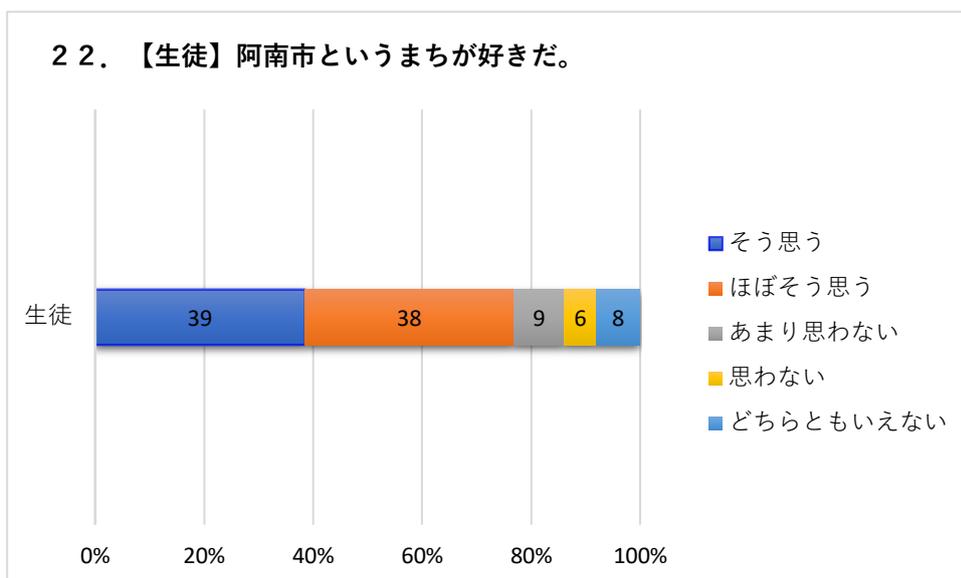
保護者の肯定的回答が66%という結果になり、4割弱の生徒が家庭での生活習慣に課題が見られることがわかりました。基本的な生活習慣の確立は、学力や体力の向上につながります。朝食を毎日食べる習慣や健康な体づくりができるよう阿南市が取り組んでいる「食育パワーアップ作戦」を活用するなど、基本的な生活習慣の確立に取り組んでいきます。

21. 【生徒・保護者】ICT活用（タブレットやプロジェクターなど）で授業がわかりやすくなった。【教職員】情報教育によって、指導環境が向上した。



生徒の肯定的回答は75%となり、昨年度とほぼ同じ結果となりました。一方、保護者の肯定的回答は50%にとどまっていることから、家庭に対するICT活用事例の紹介に課題が見られます。教職員の質問では肯定的回答が昨年度より6%減少の60%になっています。この結果から、ICTを活用した授業づくりに教職員が試行錯誤している様子がうかがえます。ICTを使用することだけが目的にならないように、効果的に活用する実践方法を今後も研究していきます。

## 22. 【生徒】阿南市というまちが好きだ。



生徒の肯定的回答は77%で、昨年度とほぼ同様の結果になりました。誰にとっても生まれ育ったふるさとはかけがえのない場所であるため、ふるさとに誇りをもつことができるように、地域と連携したボランティア活動を積極的に進めているところです。次年度も、学校運営協議会や地域団体と連携し、持続可能な地域連携を模索していきます。

【生徒：全校】授業では教え方が工夫され、学習内容が「わかる」「できる」喜びを感じることができる

